

刊行に當つて

大分県山間部に成立した大野荘は、中世に九州に雄飛した大友氏発祥の地でもある。大友氏が、中世の守護大名として、日本封建制史上に重要な地位を占めることは申すまでもない。しかも、日本の封建制は、ヨーロッパの学者も指摘し、国内の諸学者も最近注目しているように、古代では大陸の唐文化の影響をうけて律令国家として発足した日本が、中世では中国やそのほかの東アジア諸国とは全くちがってヨーロッパ的な封建制度への独自の道を歩いた。このことは指摘されながらもその理由については、全く未だ解決されていない。この点の解決の糸口が九州地方の莊園を究明することによって得られないであらうか、ということから、われわれ同志は、「九州莊園の総合的研究」班（略称「九州莊園綜合研究会」）を組織し、文部省から科挙研究費の支給を得て、その手始めとして大野荘の徹底的究明を計画したのである。幸い班員渡辺澄夫氏をはじめとする地元の研究メンバー及び、大野荘の現在地である朝地町・大野町の全町をあげての御協力によって所期の目的を達することが出来た。調査は昭和三十七年十月四日（木）から同七日にわたり、天候にめぐまれ、地元の方々の御協力により、全く理想的な条件のもとに調査は行なわれ、研究員一同幾多の知見を得たのである。

この調査の成果は、さらに他の九州地方の莊園の諸研究と共に、いち早く出版して学界及び、御好意にあずかった地元の方々にも報告する義務を感じていたのであるが、一方進行中の九州莊園史料集が、意外の巻数にわたって完成になお時日を要する見込みとなったので、「大分県地方史研究会」の御好意により取敢えずここに大野荘調査報告の分を

報告することとした。これについては、大分県地方史研究会委員長渡辺澄夫氏及び同会の委員諸氏に深く感謝を表したい。なお、現地調査に当って御協力にあずかった朝地町・大野町の方々にも、重ねて深い謝意を表わす次第である。

昭和四十年十一月二十一日

「九州荘園の総合的研究」会

代表者 竹 内 理 三